

2026年5月29日

札証IR個人投資家向け会社説明会

札幌証券取引所

東京証券取引所スタンダード市場

証券コード 8104



クワザワホールディングス株式会社

商号	クワザワホールディングス株式会社
本社	札幌市白石区中央2条7丁目1番1号
設立	1951年2月1日(創業1933年)
資本金	4億1,736万円
代表者	代表取締役社長 桑澤嘉英
事業内容	資材販売、工事施工、新築・リフォーム、運輸、製造、加工販売、サービスのグループ ^o 経営管理
発行済株式総数	16,694,496株
証券コード	8104 (札証、東証スタンダード)
売買単位	100株
グループ ^o 従業員数	1,009名 (2026年3月末現在)



■株主優待Q U Oカードの絵柄に採用されている「狸」についてご紹介します。

当社創業者の桑澤清は、店の知名度を高めるべく大きな「狸」と「猫」の像を店頭に設置しました。評判を呼び、当社のシンボルとなったこの狸像をモデルとして生まれたのが、当社マスコットの「たんたん」です。



1935年から見守る「守り神」



お色直しを繰り返した現在の「守り神」

企業理念

私たちは、安全で快適な生活空間を創造し、豊かな社会の実現に貢献します。

経営理念

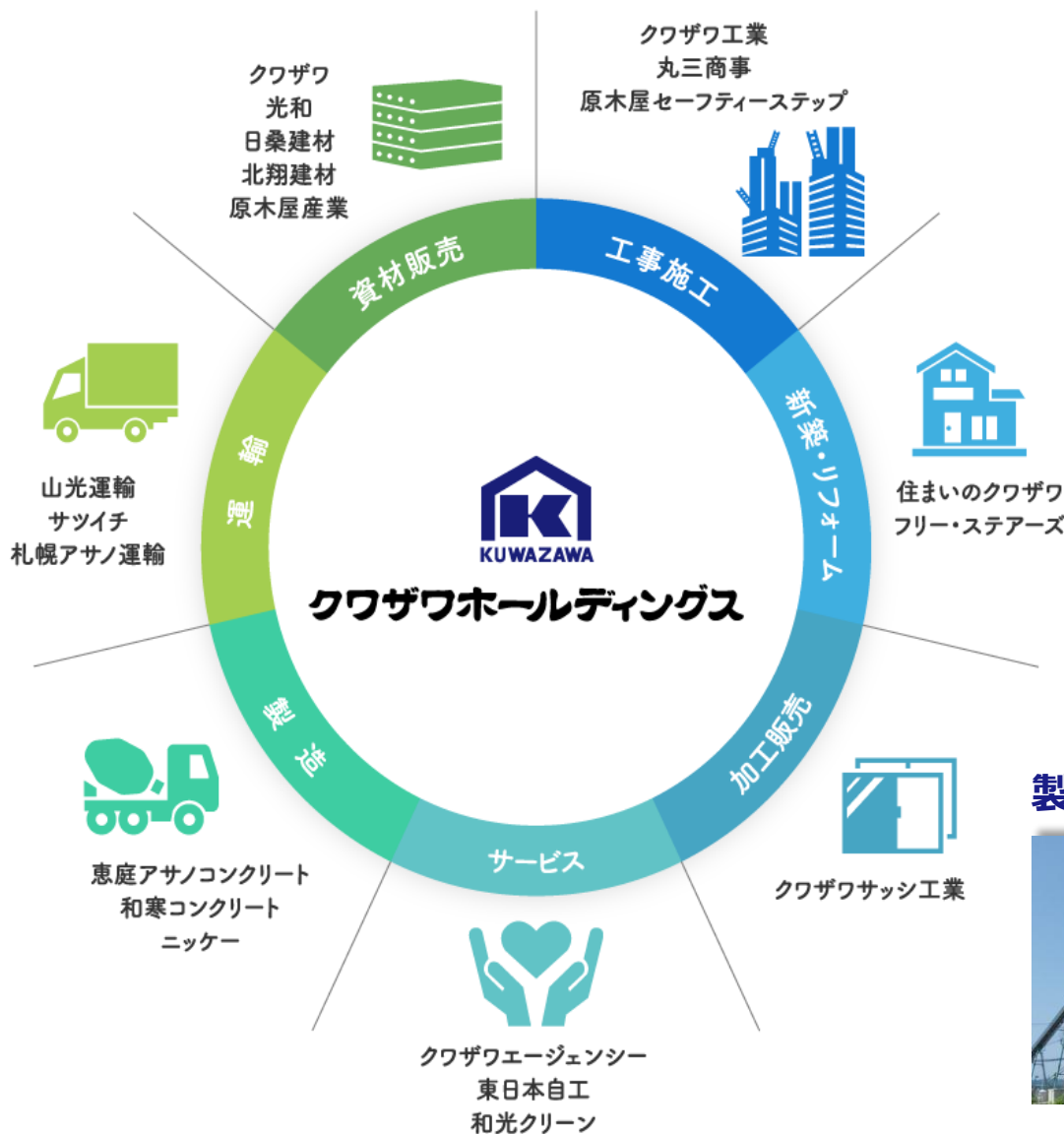
- 一、社業を通じて地域社会の生活向上に貢献する。
- 一、お客様から強く信頼される会社となる。
- 一、利益ある成長を遂げる。
- 一、働きがいのある会社をつくる。
- 一、仕事を愛し、会社を愛する。

スローガン

「自分が燃えれば他人^{ひと}も燃える」

行動指針

- 一、お客様満足を全力で追求する。
- 一、創造的・革新的であり続ける。
- 一、社会の法令と社内のルールを遵守する。
- 一、人材育成に力を注ぐ。
- 一、上司は自ら率先垂範する。



資材販売（基礎資材）



工事施工（内装工事）



製造（生コン製造）



運輸（建築土木）



クワザワグループ本社ビル（札幌市）



(株)クワザワ東京事業所
（東京都千代田区神田）



(2026年4月1日現在)

■ 2026年3月期 地区別売上高（管理会計ベース）

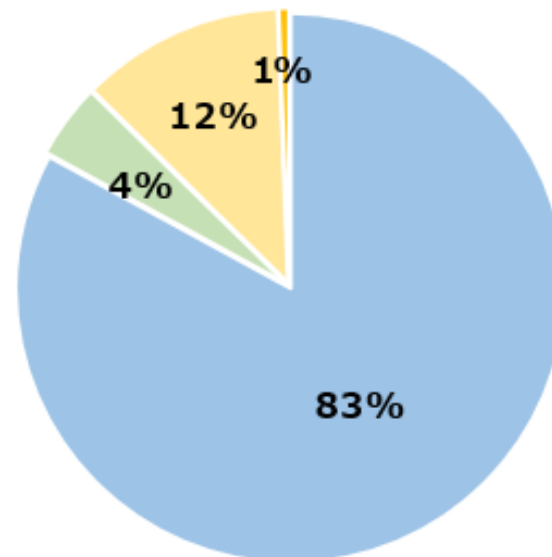
※当資料の地域別売上高は管理会計数値に基づき作成しており、収益認識基準適用前の数値を用いております。
また、グループ内部取引の影響は考慮しておりません。

- ・北海道が売上の約8割を占め大型インフラ案件や再開発需要を背景に大きく拡大

（単位：百万円）

地域	2025年3月期	2026年3月期	増減額
北海道	95,942	100,685	+4,743
東北	5,733	5,384	▲349
関東	14,747	14,580	▲167
その他 （関西、愛媛）	782	752	▲30
合計	117,203	121,400	+4,197

2026/3月期
地区別売上構成比



■ 北海道 ■ 東北 ■ 関東 ■ その他（関西、愛媛）

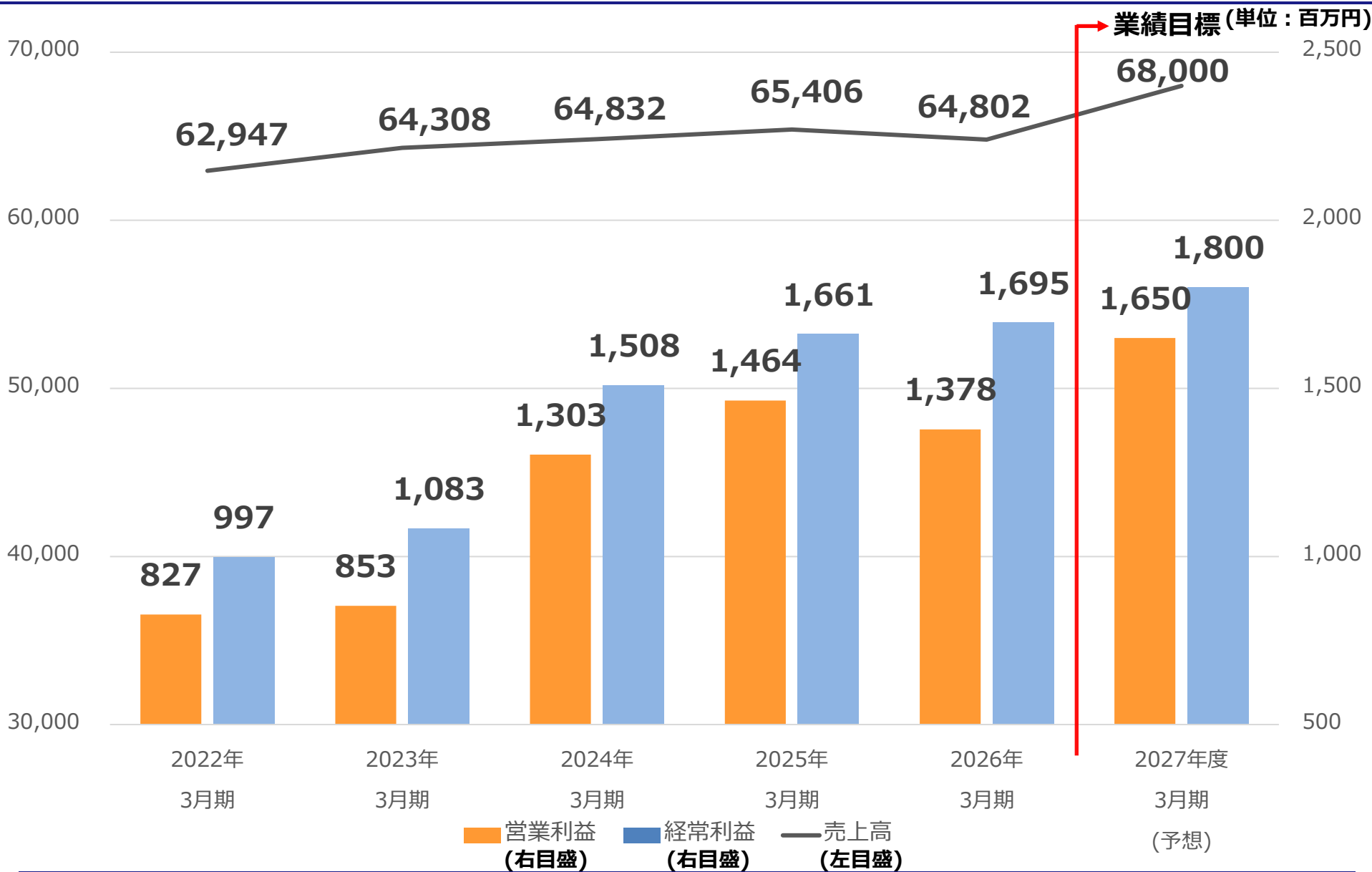
■グループ連結ハイライト

(単位：百万円)

業績ハイライト（連結）	2025年3月期	2026年3月期	増減額	前期増減率
売上高	65,406	64,802	▲604	▲0.9%
営業利益	1,464	1,378	▲85	▲5.8%
経常利益	1,661	1,695	+34	+2.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	747	1,078	+330	+44.2%
1株当たり当期利益（円）	+49.73	+72.14	+22.41	—

売上高	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道の住宅着工は低調に推移し、需要水準は引き続き低位 ・新築需要は弱含みの一方、中古・リフォーム需要が下支え
利益	<ul style="list-style-type: none"> ・非住宅・倉庫、設備投資関連の大型案件が堅調で、セメント・生コン需要を下支え ・主力の内装工事も北海道で底堅く推移し、安定収益の確保に寄与

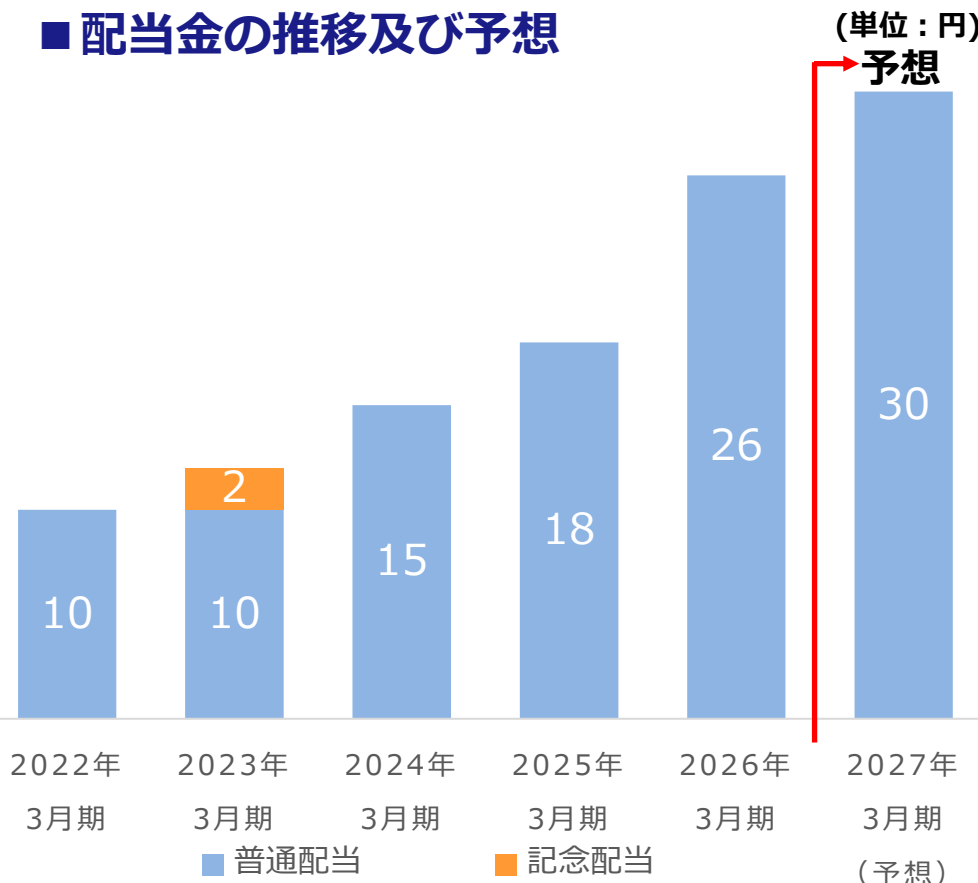
業績推移と目標



■ 配当金に関する方針

当社は、将来に備えた経営基盤の強化に配慮しながら、株主の皆様のご期待にお応えできるよう、連結業績及び財務状況を勘案した上で、**連結配当性向40%**を目安に継続的な配当を実施いたします。【適用時期 2027年3月期より】

■ 配当金の推移及び予想

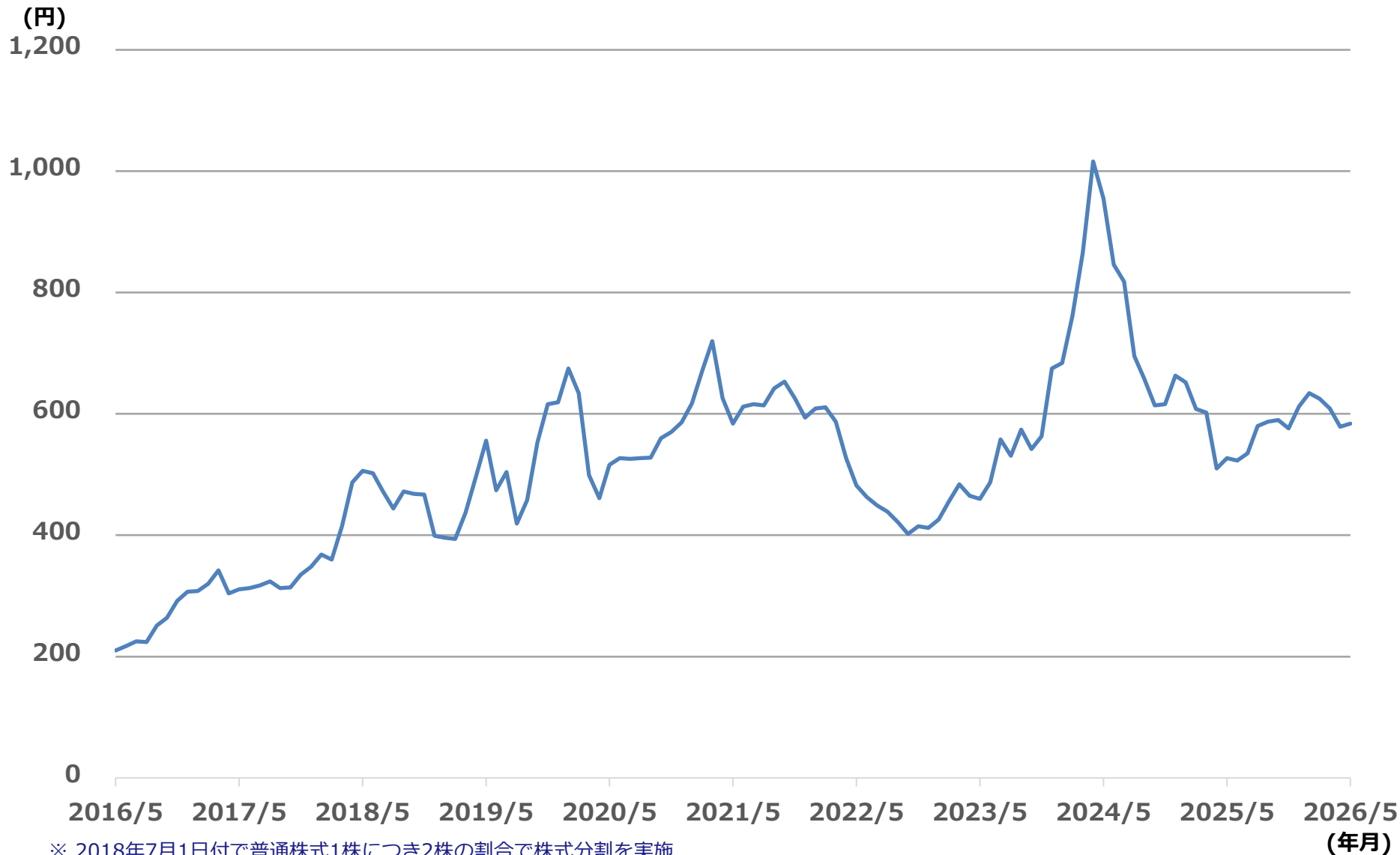


■ 株主優待制度について

対象となる株主様	毎年3月31日現在の株主名簿に記載又は記載された100株以上の株主様	
優待内容	保有株式数	優待内容
	100株以上500株未満	QUOカード 1,000円分
	500株以上1,000株未満	QUOカード 2,000円分
	1,000株以上	QUOカード 3,000円分
贈呈時期	毎年6月に送付予定(年1回贈呈)	



株価の推移



※ 2018年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施

※ 月次データを基に自社作成

当社は事業を通じて豊かな社会の実現と持続的成長に貢献します。

環境への取組

- 環境に配慮した事業の推進
- クリーンエネルギーの創出
- 植樹活動
- 環境美化

関連するSDGs



社会への貢献

- 地域社会とのコミュニケーション
- 人材育成・人権の尊重・ダイバーシティの推進

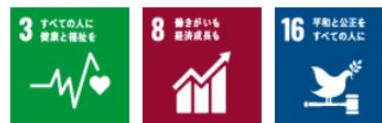
関連するSDGs



ガバナンス

- ガバナンス体制の構築
- 内部統制システムの充実
- 働き方改革・健康経営宣言

関連するSDGs



■ 植樹活動



札幌市 白旗山



建設資材事業

- 災害に強い商品を推進
- 耐久性の高い資材の販売推進
- 省エネルギー資材の販売推進
- 太陽光発電システム関連の提案
- 廃棄物のリサイクル

関連するSDGs



資材運送事業

- 安全な輸送サービスを提供
- 交通安全教室へ参加
- 北海道交通遺児の会へ寄付

関連するSDGs



建設工事業

- 豊かな住環境を創造
- 低炭素住宅の普及
- 建物の長寿化
- 安定した施工体制による工事品質の確保
- 外国人技能実習制度への取組
- 職方支援
- 技能継承

関連するSDGs



■ 職方支援



その他事業

- 木質バイオマス燃料の製造
- クリーンエネルギーの創出
- 保険の取扱

関連するSDGs



■ 【木質バイオマス燃料の製造】



※和寒環境整備事業協同組合の委託を受け製造

■ 【たんたんエネルギー・ファーム】



※2,050,000kW/年の発電力（約7,300枚の太陽光パネルを設置）
一般家庭570世帯が一年間に使用する量の発電が可能

1. 幅広い分野への事業展開によるグループの「総合力」

- 建材・土木資材1,000社以上の取引で北海道最大の専門商社。
- 商社でありながら強力な施工体制を持っている。
- 「資材販売」「工事施工」「新築・リフォーム」「運輸」「製造」「加工販売」「サービス」の7つの分野で事業を展開。
- グループ全20社が持つ専門的な能力・ネットワークを最大限に発揮し、建設事業をトータルコーディネートできることが強み。



2. 確かな「技術力」と盤石な「施工体制」

- グループの社員全体で、保有資格数は、約500に上る。
(建築士、施工管理技士、電気工事士、コンクリート技士、土木施工管理技士など)
- 北海道を中心に約1,500社に上る工事協力業者（職方数で約4,000人）
北海道・東北・関東圏での工事に対応する施工体制を構築。
- 協力業者様と共に安全衛生協力会を組織し、定期的に安全大会を開催。
事故防止に努め、質の高い工事を提供。



3. 建設資材分野の北海道トップ企業としての「信頼」と「実績」

- 1933年に「㊟タイル煉瓦問屋」として創業以来、北海道で事業を行ってきた。
- 今ではグループ中核会社の「株式会社クワザワ」と「株式会社クワザワ工業」はそれぞれ北海道における建設資材商社、内装工事業者のトップを走る企業となった。
- 地元北海道で培った信頼と実績を糧に、日本の快適な住環境の創造に向けて、日々邁進していく。

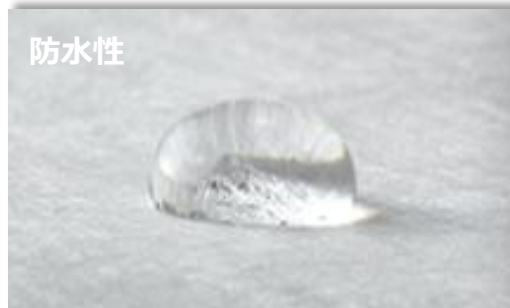


■タイベック®は、様々な特性を併せ持ち、多くの建築現場で活躍する特殊な不織布です。



透湿性

優れた透湿性で構造材の乾燥状態をキープ



防水性

湿気は通しても、外部からの雨水の侵入を防ぐ



強靱性

施工中の引っ掻きや引っ張りにも耐える強度

■ 1985年から販売をスタート

当社が全国代理店として、販売を開始

■ 四季がある高温多湿の日本の住環境に対応

- ・雨水や結露から木造住宅を守る
- ・日本の木造住宅には欠かすことのできない商品

■ 20年保証

40年以上の実績と厳密な商品検査に基づき、防水性について保証制度を導入

■ 「タイベック®」の施工現場



※「デュポン™タイベック®」は、旭・デュポン フラッシュスパン プロダクツ株式会社の商品です。

出典) *1 旭・デュポンフラッシュスパンプロダクツ株式会社,タイベック®とは, <https://www.tyvek.co.jp/construction/owner/tyvek/>

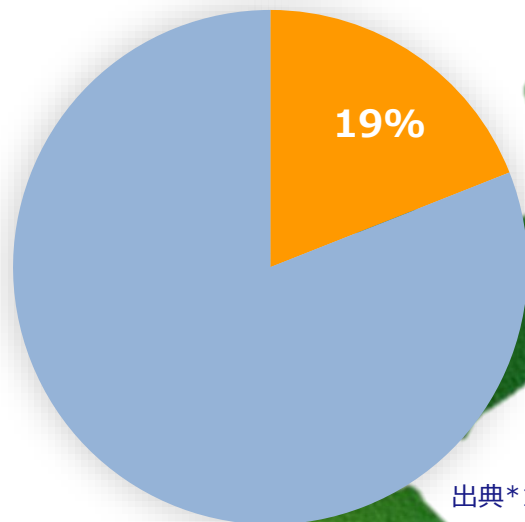
出典*1

■生コンクリート・セメント販売におけるシェア 1位（北海道）

北海道のセメント販売量

163万トン

セメント販売シェア

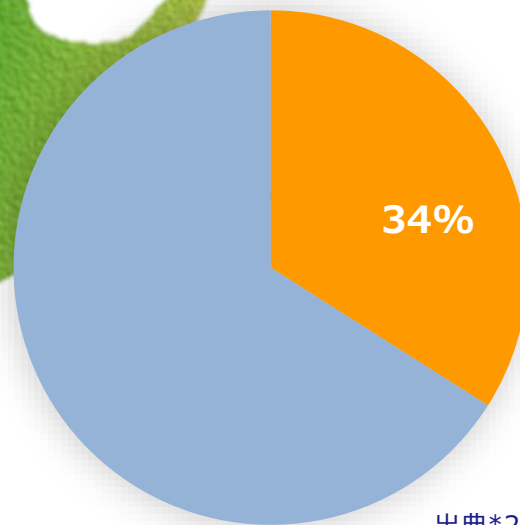


出典*1

北海道の生コン販売量

299万³m

生コン販売シェア



出典*2

※シェアについては当社推計

出典) *1 セメント協会,セメントの需給, <https://www.jcassoc.or.jp/cement/1jpn/jh1.html>

*2 北海道生コンクリート工業組合,出荷量推移 月別, <https://www.doukouso.or.jp/by-month/>

＜札幌都心部の再開発＞



※①～④開業済み、⑤～⑦再開発中

▶ JR札幌駅南口、新設の新幹線駅直結エリア

- ⑦【北5西1・西2】(エスタ跡地)
- ・道内一の高さとなる地上43階の複合ビル (2034年度と2030年度)
 - ・新幹線の駅と直結させ、ホテルやオフィス、商業施設に加え、**バスターミナル**を整備し交通拠点化



▶ JR札幌駅前、大通公園中心部エリア

- ⑤【北4西3(札幌西武跡地)】
- ・商業施設やオフィスを有する地上33階の複合ビル (2028年度)



- ⑥【大通西4エリア】
- ・オフィスや宿泊施設を有する大型複合ビル (2029年度)

出典) 北海道財務局,最近の北海道経済の動向等について(令和7年1月全国財務局長会議報告資料),

※本資料は公開情報および報道等に基づき作成

<https://lfb.mof.go.jp/hokkaido/toukei/keizaidoukoutou/index.html>

<札幌周辺部（北広島）の再開発>



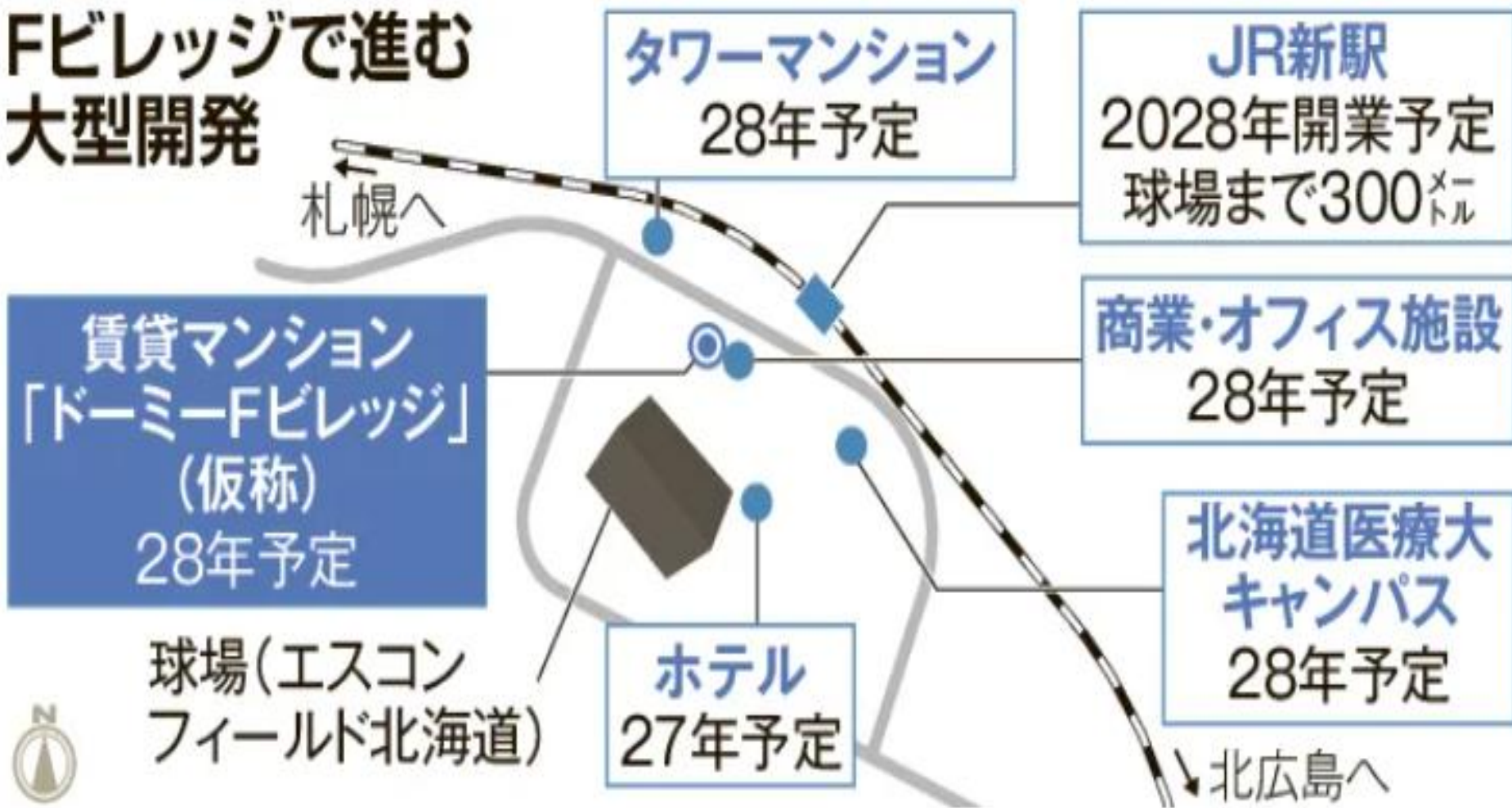
出典) 北広島市都市計画審議会, 令和7年度第2回諮問案件第1号「札幌圏都市計画運動公園地区地区計画の変更」について

<https://www.city.kitahiroshima.hokkaido.jp/hotnews/detail/00004045.html>

※本資料は公開情報および報道等に基づき作成

＜札幌周辺部（北広島）の再開発＞

Fビレッジで進む
大型開発



出典) *1 北海道新聞デジタル, Fビレッジに初の賃貸マンション 10階建て242室、北海道医療大生ら単身者の入居想定 28年春供用開始,

<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/1297667/>

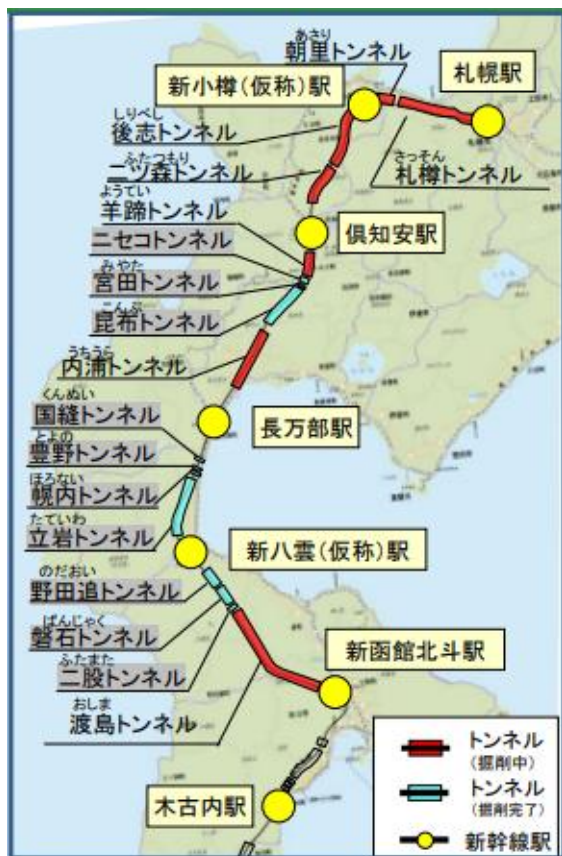
※本資料は公開情報および報道等に基づき作成

<北海道新幹線の札幌延伸（開業2038年度末見通し）>

■建設費用：約2兆3159億円（2023年3月31日発表）

最大1.2兆円の事業費の増加の可能性(2025年12月19日発表)

■北海道新幹線は全体212kmの約80%（169km）がトンネル



渡島トンネル(台場山)
トンネル掘削工施工状況



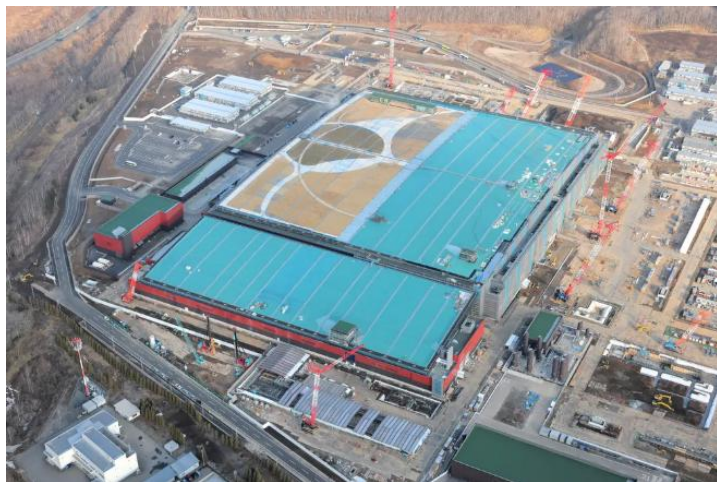
※本資料は公開情報および報道等に基づき作成

出典) 鉄道・運輸機構 (JR TT), 北海道新幹線札幌延伸推進会議資料,

<https://www.jrtt.go.jp/project/hokkaido-meeting.html>

< Rapidus（ラピダス）2025年4月1日より段階的に稼働開始 > 出典*3

・千歳市に最先端半導体の製造工場建設（総額5兆円規模の投資）



■進出が報道・公表されている企業例

	企業名（本社所在地）	用途、特徴	完成時期
道内	(株)ランドブレイン（札幌）	ショッピングモール	2024年11月
	杉原商事(有)（千歳）	オフィスビル	2026年2月
	アルファコート(株)（札幌）	ホテル(6棟、総計100億円)	2026年より順次
道外	(株)日本エスコン（東京）	物流倉庫	2026年1月
	大和ハウス工業(株)（大阪）	ホテル、商業施設、オフィス	2026年以降
海外	ASML（オランダ）	製造装置導入、保守点検	2024年9月
	アプライドマテリアルズ（アメリカ）	製造装置導入、保守点検	2024年11月
	imec（ベルギー）	技術者の派遣・育成	未定

※一部抜粋

出典*1

出典*2 ラピダスの主なできごとと今後の見通し

2022年	8月	会社設立	24年	1月	千歳事務所開設
	12月	米IBMと共同開発パートナーシップ締結		4月	米シリコンバレーに営業拠点開設
23年	2月	千歳市に製造拠点建設を発表	10月	セイコーエプソン千歳事業所に「後工程」研究開発拠点を開設	
	4月	米ニューヨーク州のIBM研究施設にエンジニアの派遣開始		12月	極端紫外線(EUV)露光装置の搬入開始
	9月	千歳市内で製造拠点着工	25年	4月 「前工程」試作開始	
	11月	北米の半導体設計テンストレントと提携	26年	4月にも「後工程」試作開始	
			27年	量産開始	

出典) *1 北海道財務局,最近の北海道経済の動向等について(令和7年1月全国財務局長会議報告資料), <https://lfb.mof.go.jp/hokkaido/toukei/keizaidoukoutou/index.html>

*2 北海道新聞デジタル,ラピダス、27年度にも第2工場着工 千歳の第1工場隣に 最新世代「1.4ナノ」量産へ, <https://www.hokkaido-np.co.jp/article/1243611/>

*3 北海道新聞社,ラピダス効果 最大18.8兆円 14年間 道内総生産11兆円増, 2023-11-22朝刊

※本資料は公開情報および報道等に基づき作成

ラピダス効果最大18.8兆円
14年間 道内総生産11兆円増

< データセンター (DC) 建設 >

■ 北海道の立地優位性

- ① 冷涼な気候 (冷却コスト低減・電力効率向上)
- ② 首都圏集中リスクの分散と大規模開発余地
- ③ 再生可能エネルギーの高いポテンシャル

- ・ 苫小牧：ソフトバンク「北海道苫小牧データセンター (AI)」は2026年度の開業を目標。
将来的に敷地約70万㎡・受電容量300MW超まで拡張見込み、北海道内再エネ100%活用の地産地消型DC。
- ・ 石狩：東急不動産「石狩再生可能エネルギーデータセンター第1号」は2026年3月27日竣工。
2026年8月に一部データホール稼働開始予定、同時期にIOWN/APN (次世代通信基盤) で石狩ー東京(大手町)を接続(次世代の低遅延・大容量・省電力通信を実装)。



出典*1



出典*2

※本資料は公開情報および報道等に基づき作成

出典) *1 株式会社IDCフロンティア, 「北海道苫小牧データセンター」起工式を開催しました, <https://www.idcf.jp/news/topics/20250418001/>

*2 東急不動産株式会社, 再エネ100%で運用するデータセンター、北海道(石狩市)・東京(大手町)で初のIOWN通信環境を実装
～環境配慮型のデータセンターが間もなく完成～, <https://www.doukouso.or.jp/by-month/>

< Power Base Hokkaido 2027年6月稼働 >

- ・ 苫小牧市植苗地区に「北海道初の蓄電池工場」を開設 総事業費：約30億円



出典*2

- ・ 北海道で初めての蓄電池工場ができるほど、産業集積・エネルギー産業の拠点として注目されている地域。
- ・ 北海道・東北は再エネの適地で、蓄電池需要が今後も拡大。エネルギー関連企業の誘致・進出が進みやすいエリアとして注目。
- ・ 交通アクセス・物流条件の良さを挙げており、新千歳空港・苫小牧港・高速道路へのアクセスが良く、「輸送コスト抑制」が言及されている。

出典) *1 北海道新聞社, 苫小牧に大型蓄電池工場, 2026-3-24朝刊

※本資料は公開情報および報道等に基づき作成

*2 株式会社パワーエックス, 北海道苫小牧市に新工場の開設を決定, <https://power-x.jp/newsroom/2026-03-23-1?gl=JP>

出典*1



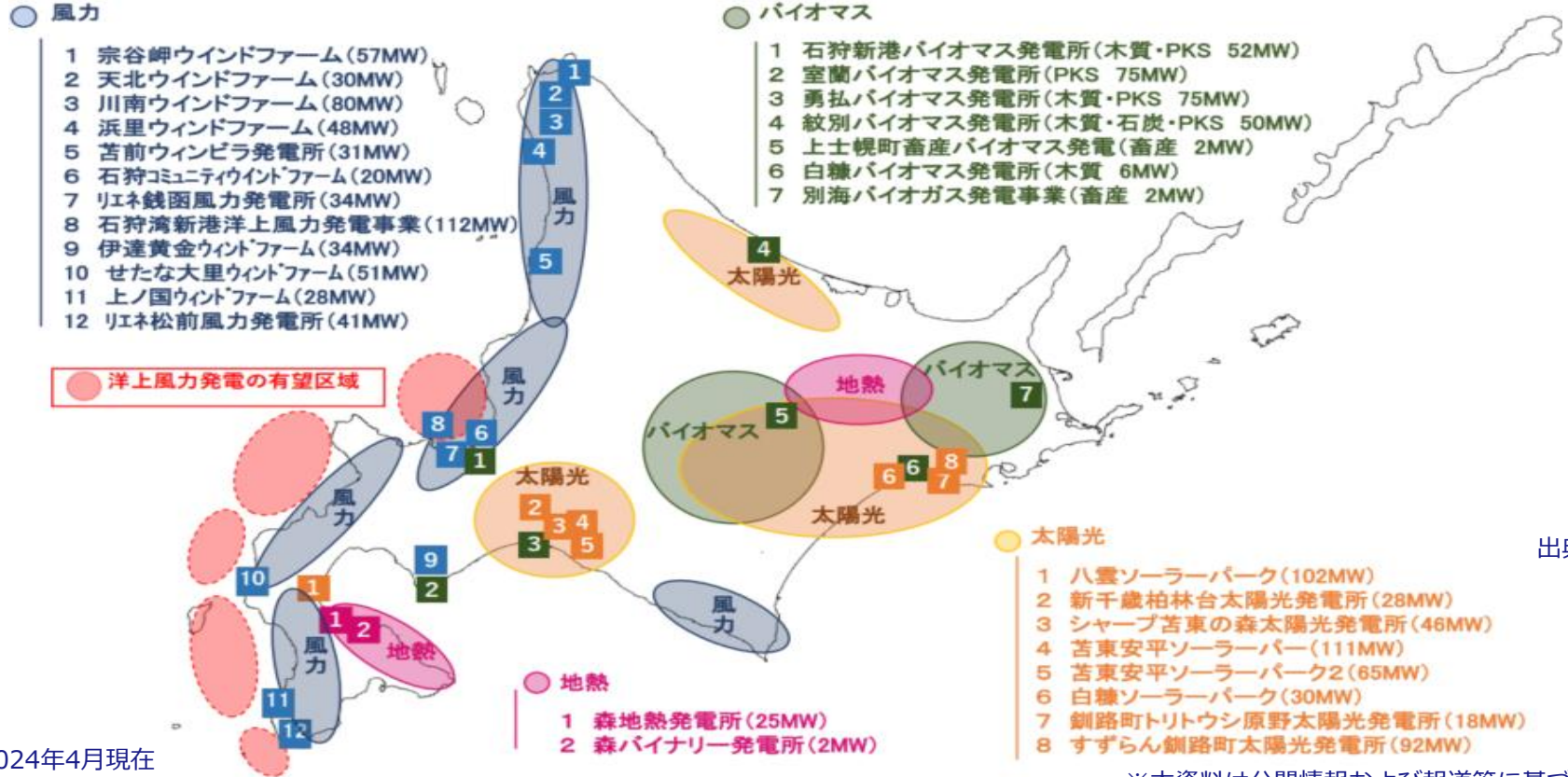
出典*1

パワーエックス 再エネ需要拡大で

苫小牧に大型蓄電池工場

< 北海道の再エネポテンシャル >

出典*1



出典*2

注) 2024年4月現在

※本資料は公開情報および報道等に基づき作成

出典) *1 北海道, 広報紙ほっかいどう2024年9月号, <https://www.kohoshi-hokkaido.com/feature/2409/02>

*2 札幌市, 道内の再エネポテンシャルやGX産業の可能性, https://www.city.sapporo.jp/kikaku/gx/documents/02_koen3.pdf

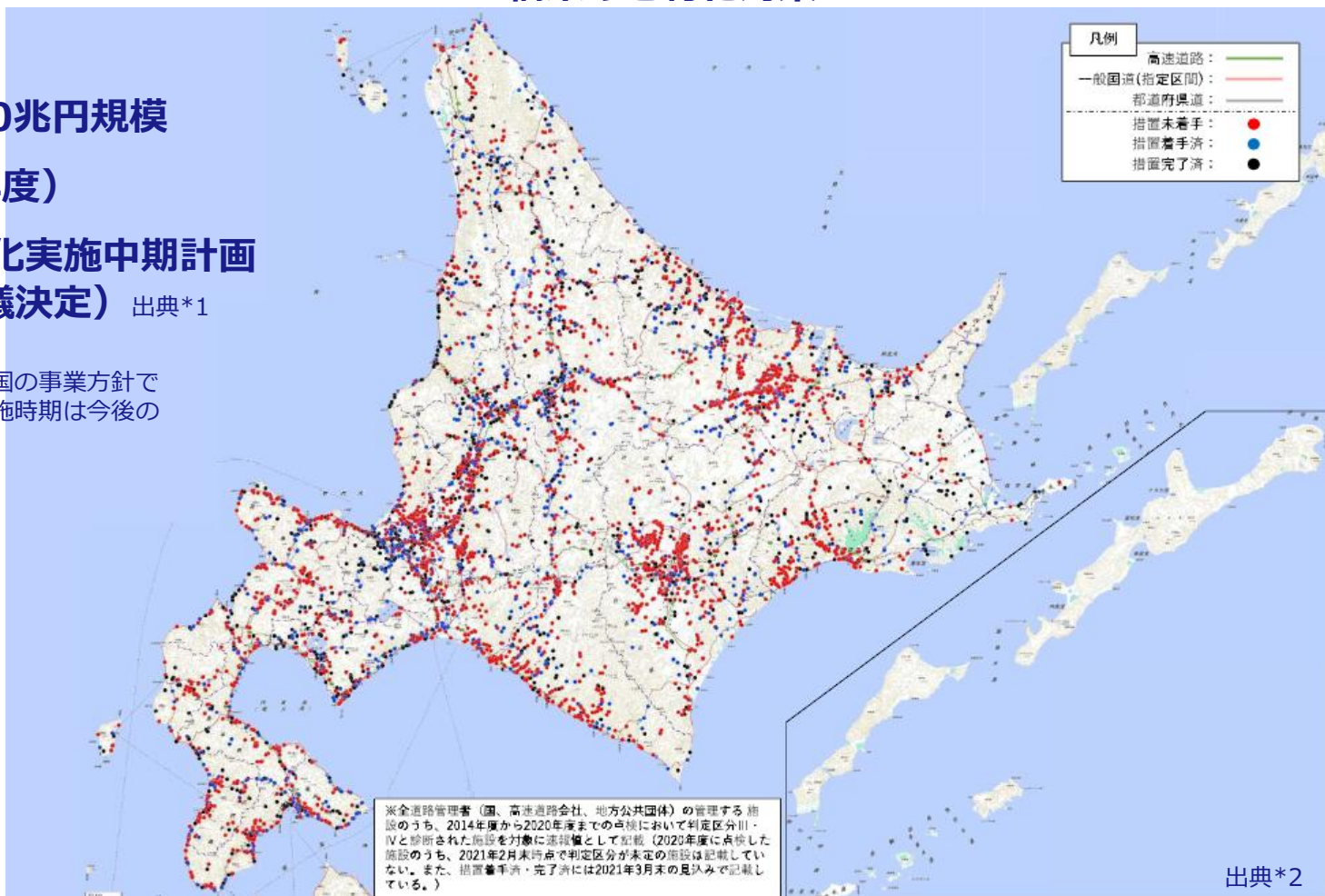
<国土強靱化計画>

■ 橋梁の老朽化対策

・ 国土強靱化 約20兆円規模
(2026~2030年度)

— 第1次国土強靱化実施中期計画
(2025年6月 閣議決定) 出典*1

※本計画は全国を対象とした国の事業方針であり、各地域の事業規模・実施時期は今後の予算編成等により決定される。



出典) *1 内閣官房,第1次国土強靱化実施中期計画(2026-2030),
https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyujinka/dai1_chuukikeikaku/index.html

※本資料は公開情報および報道等に基づき作成

*2 国土交通省, 防災・減災、国土強靱化に向けた道路の5か年対策プログラム(北海道ブロック版)を策定,
<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/release/slo5pa00000050th-att/slo5pa0000005m6s.pdf>

<泊発電所 新たな防潮堤設置工事>

■工事費 約1,800億円（準備工事：約700億円、設置工事：約1,100億円）

・泊発電所の津波対策として新たな防潮堤の設置工事を開始

【工事の開始時期】 2024年3月28日

【工事の完了時期】 未定

【構造】 コンクリートおよびセメント改良土による岩着支持構造

【高さ】 海拔19.0m

【延長】 約1,200m

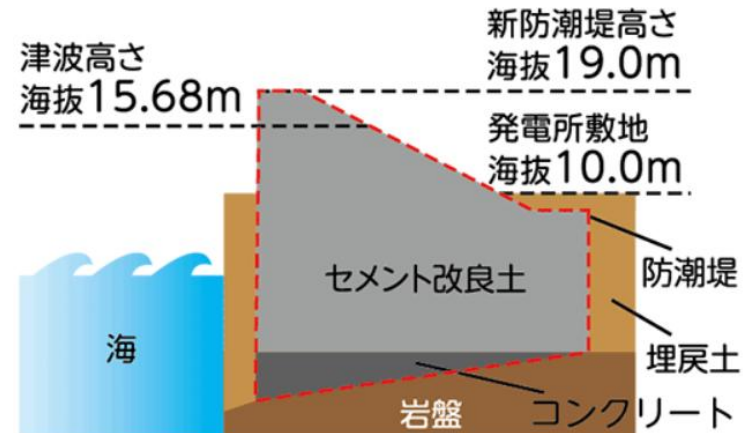
【幅】 最大30m

【概略スケジュール】 出典*2

防潮堤設置工事	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
準備工事	土砂運搬/セメント改良土製造設備の設置など ▲11月 ▼6月				
設置工事		土留め ▲3月 ▼12月	掘削 ▲10月 ▼1月	コンクリート・セメント改良土打設 ▲3月	

【防潮堤構造】

出典*2



【防潮堤設置イメージ】

出典*1



出典）*1 北海道電力株式会社, 泊発電所 新たな防潮堤設置工事の概要,
https://www.hepco.co.jp/info/2023/_icsFiles/afieldfile/2024/03/22/240322_2a.pdf

※本資料は公開情報および報道等に基づき作成

*2 北海道電力株式会社, 津波から発電所を守る,
https://www.hepco.co.jp/energy/atomic/safety_improve/protect_tsunami.html

**本日は
ご清聴ありがとうございました。
厚く御礼申し上げます。**

本資料に記載されている業績予想などの将来に関する記述は、現時点での入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、その正確性を保証するものではありません。

実際の業績等は、業況の変化により本資料の予想数値と異なる場合がありますので、本資料のみに依拠して投資判断されることはお控えください。

